

うちの団長はアレグロなんだ！

中学時代の音楽のテストに必ず登場するアレグロやModeratoなどの言葉。いずれも曲のテンポを表す言葉です。どこの国の言葉だか分からない記号をおぼえておかないと点がとれず、そのせいで中学の音楽が嫌いになったなんて人もいますのでは？

ご存知の方も多いでしょうが、これらの言葉はイタリア語です。今や大物首相の退陣劇で行く末が案じられる国ですが、それでも、楽譜のあちこちにイタリア語は書き込まれています。テストでは、その言葉の意味を答えなければなりません。ちなみにAllegroの意味は、音楽の教科書どおり「速く」と答えれば正解です。

最近インターネットで外国語を翻訳できるサービスがいくつもあって、イタリア語だって例外ではありません。試しにある翻訳サイトでAllegroと入力してみると、なんと「幸せな」という日本語訳が返ってきました。なるほど、幸せそうに演奏すれば、心もウキウキ、ノリノリで演奏するからテンポも速くなるってわけでしょうか。調べてみると、イタリア

語で「^{アレグロ}Allegroな人」といえば、「陽気な人」っていう意味になるようです。（つまり、府中シティオーケストラの団長K氏のような人）

^{モデラート}Moderatoは「中くらいの速さで」と教科書にのっていますが、「ステーキの焼き具合はModeratoにして」といえば、「ミディアム」に焼いてもらえます。

その他にも音の強弱を表すイタリア語も楽譜にはたくさん現れます。p と書いて「ピアノ」と読みます。これは「弱く」という意味。その反対はfで「フォルテ」と読み「強く」の意味になります。ピアノと言えば楽器の名前ですが、つまり「小さな音の出る楽器」……ではありません。ピアノの本名は^{ピアノフォルテ}pianoforteといい、つまり、弱い音から強い音まであらゆる音が出せる楽器という意味で名付けられたのです。

「音の強弱」といえば、^{クレシエンド}crescendoと^{デクレシエンド}decrescendoというのがあります。これも大抵テストに出題されるので、記憶の片隅に残っている人も多いでしょう。^{クレシエンド}crescendoは「だんだん強く」、^{デクレシエンド}decrescendoは「だんだん弱く」という意味が教科書にのっています。これを先ほどの翻訳サイトで訳してみると、^{クレシエンド}crescendoは「成長

する」、^{デクレシエンド}decrescendoは「減少する」と返ってきました。

このように、これらは決して音楽のための特別な言葉ではなく、曲のテンポや強弱などの音楽的表現をイタリア語で表わただけなのです。当然、イタリアでは普通に話されている言葉にすぎないのです。

例えばこんな感じに使われます。「うちの三人娘は、^{クレシエンド}だんだんcrescendoなので、それにともなってお父さんのお小遣いは今月も^{デクレシエンド}decrescendoだった」なんて具合？

ああ、イタリア歌劇の結末は、いつだってこんなに悲しいものなのです。